

令和6年8月21日

益富地域会議
会長 黒田 隆 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和5年12月20日に益富地域会議から受けた「『(仮称)ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造」に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

益富地域会議からの答申に対する検討結果

1	答申内容	計画を進めるに当たっては、デジタル化の推進や環境問題等のSDGs（持続可能な開発目標）に関する様々な取組を前面に出し、「ダントツの豊田市」が見えることを期待します。
	市の考え	「（仮称）ミライ実現戦略2030における取組目標の一つとして「脱炭素社会の実現に挑戦する」を掲げ、環境問題等に注力することや、ミライにつながる先進的な取組を進めることを検討しているほか、デジタル化については、各種取組を進めていく前提であると考えており、各種施策の中で推進することを考えています。
2	答申内容	（１）「つながり」について 「つながり」を重視し、まとめられていることは評価しますが、「つながり」には人や地域への信頼感が重要であり、「信頼感を生み出す」ことについての内容が加わるとよいと考えます。 また、「つながり」に関する取組において、「官」と「民」の連携など、多様な連携を継続することを希望します。
	市の考え	ご意見のとおり、「つながり」には信頼が重要であり、「（仮称）ミライ構想」においては、「多様な価値観に気づき、互いに認め合う」ことにより、「世代や国籍を超えた様々な主体との「つながり」の選択肢が広がります。」として、信頼に係る内容を加えております。 また、官民連携については、「まちづくりの基本的な考え方」として、「多様な主体が創り上げるまちづくり」を掲げ、行政が担うべき役割を果たしつつ、市民や事業者などの多様な主体がまちづくりに参画する「共働によるまちづくり」の更なる推進を図ることを行動規範とする考えです。

3	答申内容	(2) めざすまちの姿について 子どもたちや子育て世代にとって住みやすく、住みたいと思うまちを目指してまちづくりを進めることで、まちの活性化が図られ、高齢者も安心して暮らせるまちの実現につながると考えます。
	市の考え	将来像については時代が変わっても大切にしたい姿として掲げるとともに、子どもを含め誰もが共有できる言葉で示すことを意識しており、「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を継承することを考えています。 なお、「(仮称) ミライ実現戦略2030」において、注力する視点として、①「こども」起点でまちづくりを考える。②誰もが「つながり合う」まちづくりを進める。③人を支える「まちの基盤」を作る。を掲げ、若い世代を含む子どもたちが多様な場で、多様な人と世代とつながり多様な経験ができるまちづくりを進めることを重視したいと考えています。
4	答申内容	(3) 「多様な主体が楽しむまちづくり」について 「多様な主体が楽しむまちづくり」における「主体」が誰を指すのかが分かりづらいと考えます。具体的な施策を進めるには「どういった主体が共働で楽しめるようにするのか」を分かりやすく示し、共通認識を持っておく必要があると考えます。
	市の考え	多様な主体とは、市民一人ひとりはもちろん、自治区や地域コミュニティをはじめ企業や各種団体、市民活動団体や大学、高等専門学校などの学生、外国人、本市に在住・在勤はしないがまちに関わっている関係人口など、様々な単位・属性全てを包含するものと捉えています。

	答申内容	(4) 都市構造について 車上狙い、窃盗、詐欺等の事件も多発しているため、「都市構造の実現に向けた方針」に「防犯」を加えるとよいと考えます。 また、従来の車社会を前提としたまちづくりでなく、地域でコンパクトに生活できるまちづくりを進めたり、ITや自動車産業以外の産業等を産官学の連携等により検討したりすることが必要だと考えます。 なお、「都市構造」中の「(仮) えきちか居住誘導エリア」については、「えきちか」とひらがなを使うと「駅近」と「駅地下」のどちらか分かりにくいいため、漢字を併記するなど分かりやすい表記とするようお願いします。
5	市の考え	「防犯」の視点は、安全・安心な暮らしを支える非常に重要な視点であり、都市の骨格や土地利用の方針を示す「将来都市構造」の中ではなく、「(仮称) ミライ実現戦略2030」において、取組方針「ともにミライにつながるまちをつくる」の考え方として、「こどもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくる」として、取組の前提として示していきたいと考えています。 「コンパクトに生活できるまちづくり」は、今回の都市構造の考え方の基本となるものであり、地域の拠点性を大切にしながら新たな技術等も活用し、拠点同士がつながるまちづくりを進めていきます。 えきちか居住誘導エリアは、鉄道駅が持つポテンシャルを最大限に活用し、安全で快適な市街地の形成に向けた取組の方向性を示すものです。ご意見を参考に、表現のほか、居住誘導に関する具体的な取組やその区域等について検討していきます。
6	答申内容	(5) 全体を通して 「カタカナ言葉」や「アルファベットの略語」が使用されているため、理解しづらくなっていると考えます。できる限り市民の馴染みのある言葉を使って平易な表現としていただくとともに、市民に総合計画を知ってもらえるよう、周知活動を工夫して実施することを期待します。

	市の 考 え	表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。計画自体についても、市民の皆様にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。
--	-----------------------	---